



学校教育目標

自ら求めて学ぶ心豊かな生徒の育成

火災避難訓練

6月24日(水)午後、地震直後の火災を想定した避難訓練を行いました。全校生徒は静かに素早く行動して避難することができました。

【訓練後の話】

今日の避難訓練、真剣に取り組みました。しかし、もしこれが本物の火災なら、全員が無傷で逃げ切れたでしょうか。危機感を持ち、当事者意識を高めるために、2つの事実を伝えます。

1つ目は、火災の多さです。令和7年度、全国で起きた火災は(40,783件)にのぼります。およそ13分に1回、日本のどこかで火事が起きています。私たちの香川県でも(約300件)発生しており、学校や家がいつ火元になってもおかしくありません。

2つ目は、つい先日の6月19日、東京都の小学校で起きた実際の火災です。授業中、4階の音楽室から出火し、一瞬で煙が広がりました。全員避難はできたものの、煙を吸ったり、パニックで転落したりして(11人)が重軽傷を負いました。

学校であっても、火災は突然命を脅かします。犠牲者を絶対に出さないために、次の3つの行動を命に刻んでください。

- ① ハンカチで口と鼻を完全に塞ぐ
一吸いで意識を失う「有毒な煙」を吸わないことが最優先です。
- ② 訓練通りにいかない「想定外」に備える
東京の火災では、救助袋が使えず、防火シャッターで階段が塞がれました。別のルートを瞬時に判断する必要があります。
- ③ 焦って飛び降りない
怪我の原因はパニックによる転落でした。先生の指示を信じ、落ち着いて行動してください。
「自分の命は自分で守る」…この言葉の本当の重さを、今日の訓練から学び取ってください。

H3

「H3」と聞いて何を思い浮かべますか？平成3年ではありません。新型ロケットの名称です。2026年6月12日、日本の新型ロケット「H3」6号機の打ち上げが成功しました。今回はコストを抑えるために補助のブースターを付けない「いちばん安い」新形態での初めての挑戦であり、日本の宇宙産業の未来を開く大きな一歩となりました。実は今回の打ち上げには、これまでの日本の宇宙開発とは少し違う「新しい挑戦」が隠されていました。それは、ロケットの横に付いている白い補助ロケット(固体ロケットブースター)を1本も使わずに、本体のメインエンジンだけで飛び立ったことです。

なぜブースターを使わない形に挑戦したのでしょうか？理由は主に2つあります。①打ち上げ費用を従来の半分(約50億円)に抑え、世界中から注文をもらいやすくするため、②構造をシンプルにすることで準備期間を短くし、たくさんのロケットを次々と打ち上げられるようにするためなのです。

H3ロケットにはいくつかの種類(形態)があります。今回は、右の図のように、一番左側にある「ブースターなし」の最もスマートで経済的な形での初飛行でした。日本の「ものづくり」の知恵と技術が、遠い宇宙をどんどん身近なものに変えようとしています。みなさんも日々の生活の中で、今ある仕組みをさらに良くするアイデアや、新しい工夫を凝らす「挑戦の心」を大切にしていってくださいね。 図: JAXA HP→

JAXA 宇宙輸送技術部門

